



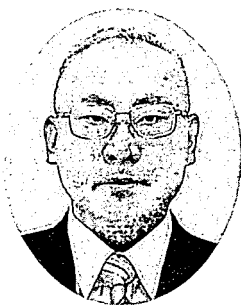
— も く じ —

◎あいさつ	1	◎特色ある学校	6
◎県の動き 総会・講演会	2	◎地区だより	7
要請活動・合同研修会	3	◎ひろば・編集後記	8
◎全国の動き 全国研究大会	4・5		

様々な課題の中で

会長あいさつ

宇都宮市立明保小学校 柿沼隆久



平成24年度が始まり数か月が経ちました。学校には今年度も引き続き多くの課題が示されていると感じます。

子どもたちが生き生きと学校生活を送るためには、まずもって安全・安心な教育環境が前提となります。ひとたび問題が発生した場合、我々教頭には、すべての状況を把握し、課題解決の方策を考え、教育活動を推進する役割を果たすことが求められます。昨年の東日本大震災の記憶もまだ新しいところではありますが、それに加えて最近では、登下校途中の事件・事故や、竜巻・洪水等自然災害による被害の発生など、子どもたちの安全確保に係る課題が社会の注目を集めているものと感じます。安全教育に関しましては、昨年の東日本大震災をふまえ、本年3月に中央教育審議会から文部科学大臣に対して「学校安全の推進に関する計画の策定について」と題する答申が提出されました。その中では「危険回避のために主体的に行動する態度の育成」や「児童生徒等の状況にあわせた安全教育」などが盛り込まれております。今後、安全教育や安全管理等について文部科学省や各行政の動きを注視したいところです。

また、昨年度の小学校に続き、今年度は中学校においても新学習指導要領が全面実施となりました。さらには、本県では昨年度「とちぎの子どもたちを、自らの力で、自分の未来を力強く切り拓いていける人間に育てる」ことを基本理念とした「とちぎ教育振興ビジョン三期計画」が実施され、今年度は2年目を迎えます。教師一人一人が自信と誇りをもって子どもたちに向き合い、新しい時代にふさわしい教育の創造に向けた学校運営を目指すため、我々教頭が果たすべき役割の大きさを改めて認識するところでもあります。

このような中、全国公立学校教頭会は平成23年度から平成25年度までの3年間、第九期の全国統一研究主題「豊かな人間性と創造性をはぐくむ学校をめざして」を掲げ、子どもたちの「生きる力」の育成を目指した継続的かつ協働的な研究を進め、本年度はその第2年次となります。

さらに、我が栃木県公立小中学校教頭会におきましては、今年度、結成50周年という大きな節目の年を迎えます。これまでの多くの先輩方の研究成果や実績を継承し、「自らの力で、自分の未来を力強く切り拓いていける人間」の育成を目指して、あまたの課題の解決やその対応に向けて、会員相互の協働意識を確認し合い、より一層研究の充実・発展に努めてまいりたいと考えます。

我々は管理職者であると同時に、子どもたちの教育に携わる教師であることに、あらためて責任の重さと、プロとしての誇りを感じるところでもあります。本会は職能研修団体として、今年度も会員相互の情報交換や研修をより一層充実させ、様々な教育課題解決のための諸活動を推進してまいりたいと思いますので、何とぞ皆様のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

我々は管理職者であると同時に、子どもたちの教育に携わる教師であることに、あらためて責任の重さと、プロとしての誇りを感じるところでもあります。本会は職能研修団体として、今年度も会員相互の情報交換や研修をより一層充実させ、様々な教育課題解決のための諸活動を推進してまいりたいと思いますので、何とぞ皆様のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

—— 県教頭会の動き ——

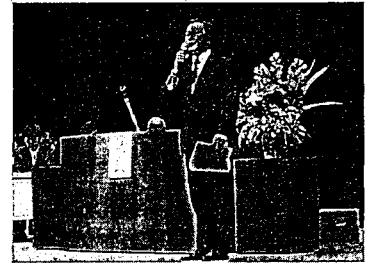
定期総会

「第50回定期総会並びに研修会」節目の年に盛大に開催

日 時 平成24年5月28日(月) 13:00～

会 場 宇都宮市文化会館小ホール

栃木県公立小中学校教頭会結成50周年の節目の年である平成24年度の「第50回定期総会並びに研修会」が、5月28日(月)に宇都宮市文化会館小ホールで開催されました。



定期総会では、国歌斉唱、平成24年度役員報告、会長あいさつ、来賓あいさつ等に続き、議長団が選出され、平成23年度の事業報告、会計決算報告・会計監査報告がなされました。また、平成24年度の活動方針案・事業計画案・予算案等の提案があり、慎重審議の結果、いずれも満場一致で承認されました。その後、県教頭会本部役員として活躍された方々を代表して、前会長の大網信祥様に感謝状並びに記念品が贈呈されました。

後半の研修会においては、講師にプロバスケットボールチーム「リンク栃木ブレックス」の運営会社である株式会社リンクスポーツエンターテインメントの代表取締役社長を務める山谷拓志（やまや たかし）氏をお迎えし、演題「ブレックス流 モチベーションの高め方」について講演会が行われました。チーム創設3年目で日本一という快挙を成し遂げたその体験に基づいた内容で、モチベーションマネジメントに視点をあて、心の持ち方ややる気の持たせ方など、教育現場にも直結する示唆に富んだ講演でした。

講演会

「ブレックス流 モチベーションの高め方」

株式会社リンクスポーツエンターテインメント 代表取締役社長 山谷拓志氏

— 会員の感想 —

教頭職に就き、先生方のモチベーションを高めるために、自分はどうすればよいのかと考えることがたびたびありました。しかし、山谷氏の「まず、職員ではなく、管理職である自分がどうモチベーションを高めていくかが大切であり、そのためには自分のモチベーションをマネジメントする技術が必要」と言う話に目から鱗が落ちた思いです。今は自分のモチベーションを高めるべく「3つのスイッチと3つのフォーカス」を意識することにトライしています。



(高根沢町立東小学校 村上 恵子)

自分のモチベーションをマネジメントする技術として「自己説得力」という考え方があるそうです。これは、『状況の切分け力』と『思考の切替え力』の両方をかけ合わせたものだそうです。『切分け力』とは、変えられるもの（自分、思考、行動等）と変えられないもの（他人、環境、感情等）に切り分け、変えられないものでモチベーションを下げず、変えられるものに意識を向けていくことなのだそうです。

また、『切替え力』とは、固定観念にとらわれず思考することだそうです。これらを上手に使い、常にモチベーションを高めていくことができるようにしていきたいものだと思います。

(高根沢町立阿久津小学校 柴田 安之)

要請活動状況報告

日光市立三依中学校 武田 幸雄



参議院議員 上野 通子氏

7月12日・13日の二日間にわたって、全国公立学校教頭会「平成24年度全国要請推進部長会議」が東京で開催された。

12日は、東京大学村上祐介准教授による「教育政策と教育課題」一 副校長・教頭の果たす役割ーの講演を聴いた。副校長・教頭の超過勤務がいかにか多いか、動物の飼育や植物の世話等多岐にわたる業務と超過勤務の実態が改めて浮き彫りにされた。講演後は、「平成28年度までに完全実施とされている少人数学級制度導入の見通し」等が質問された。

その後、グループ協議により、各県の勤務実態や明日の要請事項の内容が検討された。

13日は、文部科学省の谷合俊一初等中等教育企画官による「初等中等教育の諸課題について」の講演を聴いた。現行制度の成り立ちや今後の展望が明らかにされた。講演後、「今回の改訂で、時間数が大きく削減された総合的な時間の今後はどうなるのか？」等の質問がなされた。その後、本県選出国會議員の議員事務所を訪ね「人材確保法の趣旨の尊重」、「義務教育費国庫負担の1/2復活」、「地方交付税措置の在り方」について要請を行った。上野通子議員ご本人、佐藤勉議員政策秘書、茂木敏充議員政策秘書にお会いすることができた。他の議員は、あいにく不在であった。各議員・秘書の方も異口同音に「教育は国家百年の大計であるので、要請を踏まえ全力で取り組む」旨の回答をいただいた。



衆議院議員 佐藤勉氏政策秘書

合同研修会

第1回合同研修会・第2回実行委員会

第1回合同研修会・第2回実行委員会が6月25日(月)栃木県教育会館において開催されました。参加者、役員・理事・研究部・広報部・IT部・地区庶務・地区会計

[合同研修会]

柿沼会長あいさつ後、全公教総会・関ブロ教頭会第1回理事会・総会報告、他教育団体総会報告がありました。※関ブロ教頭会総会は今年度で最後となります。今後理事会が最高議決機関となります。

今年度本会総会振り返り・会費・補助金・慶弔・組織・研究について、とちぎ教育の日について協議しました。最後に今年度専門部活動について、各部長より説明がありました。

[第2回実行委員会]

11月30日の結成50周年記念式典・第50回研究大会・記念祝賀会についての協議をしました。総務部より祝賀会出席依頼・予算案について、運営部より各係依頼について、記念誌編集部より原稿依頼について・プロのカメラマン依頼について進捗状況報告及び提案がありました。

(理事会議事録は、本会ホームページログイン後グループスペースに掲載しております。パスワードは事務局までお問い合わせ願います。)



第54回全国公立学校教頭会研究大会（開催地：東京）

開会式・シンポジウム

宇都宮市立御幸小学校 森田浩子



第54回全国公立学校教頭会研究大会が7月25日(水)～7月27日(金)まで、約二千百人の参加者のもと三日間の日程で開催された。

開会行事では全国公立学校教頭会会長から、「大会の意義を認識し、参加者の充実した研究成果が各単位の教頭会、各学校運営に役立つ内容の充実した大会にしていきたい。」との挨拶に続き、平野文部科学大臣、全国中学校長会会長から御祝辞をいただいた。

続いてシンポジウムに先がけ、学習院大学の佐藤学教授より、「教師たちが学び育ちあう学校づくり」について、教室での子どもの学び合いの確立や教師が専門家としての学びを協同的に取り組み、啓発していくことの重要性を主題とした基調講演があった。

次に東京大学の勝野正章准教授をコーディネーターとして、シンポジウムに移り、遠山敦子氏から、「子どもたちは問題を抱えて生きなくてはならないが、解決していくべき課題が多いと言うことは、チャレンジすべきことがたくさんある。希望をもたせて学ぶ力を付けていくことが大切である。」佐藤教授からは、「言葉を大切に子どもたちであるべき、また、芸術を大切にすることが必要。成功している国は芸術教育が豊かな国である。」葉養正明氏からは「教師が創造性を発揮しやすい条件もある。被災地の学校はすべてを白紙に戻して学校はどうあるべきかを考えている。」佐藤学氏が「学校を信頼される共同体にすることが大切。」と述べ、最後に葉養氏が「教頭は教師の質、文化などを踏まえて、学校のあり方について原点にもどって考えることが大切。」とまとめられて、閉会となった。

記念講演

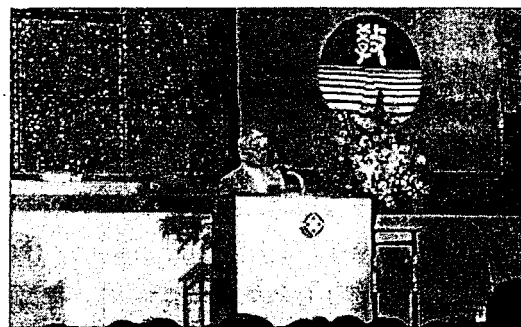
「根本的なモラル」

ノーベル賞作家 大江健三郎氏

私は、1935年に愛媛県喜多郡大瀬村で生まれた。私がまだ子どもだった1944年の大阪空襲により、大勢の方々が村に疎開してきた。母親はその方々から本を分けてもらい、それを私に与えたため、私はたくさんの本を得ることができた。私が新制中学校1年生の時、職員室の壁に「教育基本法」が貼り出されていた。それを読んで私は、教育基本法の文体はとても感じがよいと思った。（私は、文を読むときはぶつぶつと音読する習慣がある）中学生の私にもその内容を十分理解することができたし、これを作った当時の文部省の人はとても真面目なのだとも思った。それを母に話すと、人間は自分の家族等の死に向き合った時に真面目になるのだと教わった。戦争という悲しみから立ち直って再出発する時期だっただけに、真面目さと悲しさが、教育基本法の文体に反映したのだと思う。

哲学者で思想家の鶴見俊輔氏は、学ぶことについて、「言葉を現実に即したものに置き換えないと役に立つ知識とはならない。大学で学ぶ知識は必要だが、覚えただけでは役に立たず、それを学びほぐしたものが血となり肉となる。（アン ラーン）」と言った。学んだことを、覚えたとおりに使うのではなく、柔軟かくほぐし自分の言葉に作り直すことが大切である。教える側もそれを自覚する必要がある。（アン ティーチ）

文学にはモラルがある。人間の根本的な倫理観、これがモラル。そして、日本人の根本的なモラルは、子どもたちの生きていく世界・環境を壊さないこと、妨げないことである。それは個人の教養の全体を大切にすることであると思う。

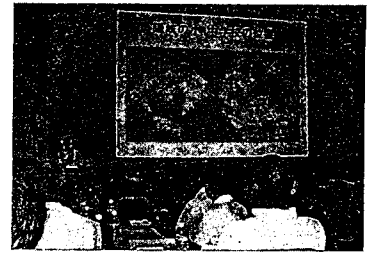


文責：宇都宮市立城山東小学校 河内 信吉

第1A分科会『教育課程に関する課題』に参加して

宇都宮市立陽光小学校 渡邊 宏

本分科会は都市センターホテルで開催されました。午前には福島県岩瀬地区小中学校教頭会より「子どもが安心安全に学ぶことができる信頼される学校をめざして」の提言がありました。昨年の東日本大震災に伴う福島第一原発の事故の影響を受け、教育課程の見直しや安心安全な学校づくりについての取組が発表されました。放射線量の高い地域であることから、教育課程に予定されていた運動会や水泳学習、野外活動など屋外での活動が制限され、実施するまでに様々な対策が検討されたこと。また、地域の関係機関と連携しながら現在も続いている校地内、通学路等の除染活動など、課題山積の実態が報告されました。生活・学習環境が日々変化し、様々な不安が重なる中で、学校と保護者・地域が一体となって復興に取り組む姿勢に会場から大きな拍手が送られました。



午後は島根県隠岐郡小中学校教頭会より「学力の向上を図るための特色ある教育活動と教頭とのかかわり」についての発表がありました。隠岐島には18の小中学校があり、島の中には学習塾などは一切なく、学校での教育活動がそのまま学力につながるため、学力低下・学習意欲の希薄化が喫緊の課題であるとのこと。そこで、教頭会が中心となって取り組んできた学力向上に関する実践が紹介されました。授業改善として取り組んだ「脳科学による授業」や放課後の補習「パワーアップタイムの充実」、子どもの自尊感情を育てるための「校長面接」など興味深い実践が報告されました。教頭が窓口となり学校間の連携を図りながら、教員の意欲や資質の向上を図ってきたことが全島の学力向上につながったと、熱く語っていただきました。

二つの提言を受け、参加者164名が24班に分かれ、それぞれの県での取組や課題など活発な意見交換がされました。各県・地域での教育活動の難しさや課題解決に向けての工夫、取組についての話し合いは、今後の学校教育活動の参考となりました。

全国研究大会特1分科会に参加して

宇都宮市立西原小学校 樽井 久



特別分科会Iは、「これからの学校教育と防災教育」をテーマに、午前中は講師の藤岡達也氏と諏訪清二氏による、東日本大震災と阪神・淡路大震災から学び得た防災教育についての講話、午後はKJ法によるグループ演習が行われ、最後に講師からのまとめがありました。

子ども達の「命を守る」ための教育活動（防災教育）とはどうあるべきかという視点から、防災・減災につなげる学校と家庭・地域との連携の在り方や、地域の自然条件や人間生活とのかかわりを学び地域に主体的に参画する子どもの育成、子どもへの自助・共助・公助の教育、新教育課程での安全教育のす

め方等について活発な意見交換がなされました。管理職として防災教育にどうリーダーシップを発揮すべきか、子ども達の命を守り育てる教育はどうあるべきかについて理解を深めることができました。

「釜石の奇跡」と言われる釜石東中学校は、欠席者1名を除く生徒216名が全員無事であり、生徒は自分たちだけではなく小学生や園児を誘導し多くの命を助けました。これは「ぼうさい甲子園」において2年連続で優秀賞を受賞したことから分かるように、日常からの防災教育の成果が災害時に表れたことで決して奇跡ではないということを知られ、日常の防災教育の重要性を改めて認識した有意義な一日でありました。

全国運営委員

運営委員活動を振り返って

宇都宮市立雀宮中学校 山口 弘 倫

東京都で開催された第54回全国公立学校教頭会研究大会での運営委員の話をいただいたとき、昨年度から県教頭会にお世話になり、未だ慣れずにいる私のはたしてお役に立てるのだろうかという不安を覚えました。しかし、全国教頭会実行委員の皆様の詳細な企画・準備・運営や丁寧な事前説明のおかげで、何とか全体会と分科会での与えられた職務（案内・接待係）を大過なく全うすることができました。

特に分科会会場では、照明係が配置されていなかったこともあり、突然の照明係を担当させていただきましたが、全国規模の大会では、その場での責任者の判断や臨機応変に対応することの大切さを改めて確認することができました。今後の学校運営に生かしていければと思います。

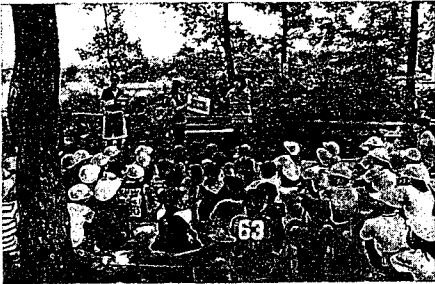
最後になりますが、今回このような貴重な機会をご提供いただきました全国公立学校教頭会研究大会実行委員会、そして栃木県教頭会、また、携わった関係者の皆様に感謝申し上げます。



特色ある学校

あいさつの^{こだま} 衍する「緑と花と小鳥の学校」

上三川町立坂上小学校 上野文江



本校は、上三川町内で最も南に位置する小規模校ですが、137年の歴史と、地域の皆様に綿々と支えられてきた伝統があります。とりわけ、「緑と花と小鳥の学校」という言葉に象徴される緑化活動においては、日常の活動が評価され、県や全国での表彰を何度も受けております。

本校の特色の第一には、校舎の東側にある「なかよしの森」が挙げられます。ベンチや小道などが整備され、生活科や理科の授業だけでなく、縦割り班による探検活動、緑陰では図書ボランティアの方々による読み聞かせなど、さまざまな教育活動が行われております。森には小鳥が集い、一角にはニワトリやウサギの飼育小屋もあります。また、各学年に農園と花壇があり、それぞれ創意と工夫を凝らして作物や草花を育てていることも特色の一つです。第二の特色は、校庭の半分以上を占める芝生です。訪れた方々には「公園の中に学校があるようだ」と言われることもあります。そして、これらの広大な敷地は、全校児童が毎週行う「みどり活動」やPTA・地域の方々による奉仕作業などによって、常に美しく整備されています。児童は体を動かすことを厭わず、嬉々として緑化活動に取り組んでいます。

最後に本校の最大の特色は、児童の元気な「あいさつ」です。東側の森や西側の芝生の校庭から、毎朝「おはようございます！」の聲が衍し、その声は、校舎内でも「こんにちは!」「さようなら!」と一日中続きます。このように、地域に支えられた緑豊かな環境と明るい人間関係の中で、児童の豊かな人間性が育てられていることを日々実感しております。

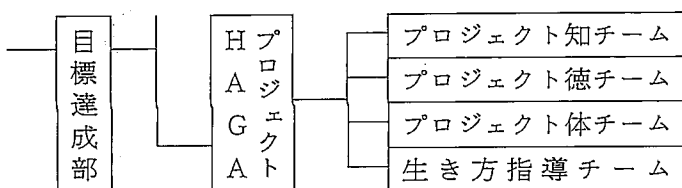
事務分担型「校務分掌」から目標達成型「学校経営組織」へ

芳賀町立芳賀中学校 清宮敏明

本校は昭和45年に3校を統合して町内唯一の中学校として発足しました。本年度、その時に生徒だった古塚秀一校長先生が着任されました。教育基本法の義務教育の目的や公立学校として本校のおかれた環境を踏まえ、本校と本校職員に課せられた使命を「自分を伸ばし、生きる力を身につけ、自分のため、みんなのために力を発揮できる生徒を育てる」と考え、基本経営理念「明日の芳賀町を担う生徒の育成」を掲げました。そして、創立当時から受け継がれている「創造」「敬愛」「実践」の指標を校訓にしました。さらに、校訓と本校の使命を受け、開校以来の教育目標を変え、「自ら学ぶ生徒 心豊かな生徒 たくましい生徒 ふるさとを愛する生徒」を教育目標としました。すべての生徒と教職員は、教育目標を達成すべく学校像「夢を育み 知を磨き 心豊かに 高め合う学校」を合言葉に邁進しています。



教育目標・学校経営方針達成のため、事務分担型「校務分掌」から目標達成型「学校経営組織」に組織編成を行いました。「学校経営組織」の構成は下記のようになっています。



学校経営方針の「知」「徳」「体」を実践するため、全職員を3つのチームに所属させ、学習指導主任・道徳教育推進教師・体育主任をチームに校内研修を実施している。

連帯感をもち充実した研修を

南那須地区小中学校教頭会長 大嶋 照夫

南那須地区教頭会は、少子化の影響を受けて、各小中学校の統廃合が進み、16名（小学校11名、中学校5名）の会員で組織されています。会員相互の研修と親睦を深めるとともに、南那須地区の教育の進展に寄与することを目的として、種々の活動を行っております。

本教頭会には、「研修部会」と「調査部会」の2つの専門部会を置き、少人数のよさを生かし、一致協力して研究・調査活動に当たっています。特に、秋に行われる講演会は、各方面から優れた講師を招き、社会の変化に対応する多様な研修に努めています。

今年度は、東日本大震災の教訓を踏まえ、防災教育について研鑽を深めるため、那須烏山市在住の小堀道和田氏をお招きする予定です。小堀氏は、県内で初めて民間会社から転出され小学校長を務めました。現在は、御退職されておりますが、昨年の大震災後、復興支援ボランティア「チーム龍JIN」のキャプテンとして御活躍されています。支援活動から得られたことを基に、学校現場の私たちに多くの示唆を与えていただけるものと期待しているところです。

また、今年度は県の「教職員の専門性に関する課題」の研究指定を受け、本地区の研究テーマを「教職員の専門性を高めるための教頭の関与のあり方」として、全会員により課題を研究し、教職員の資質を高めるための教頭の関わり方について検証し、その成果を発表できるように努めています。

今後も本地区では、小中学校の統廃合により、会員数の減少が予想されます。しかし、少人数になろうとも、会員相互が連帯感をもち、研鑽を深めていきたいと思っております。そして、教頭としてのリーダーシップを発揮し、「生きる力」を育む活力ある学校づくりを推進していきたいと考えています。

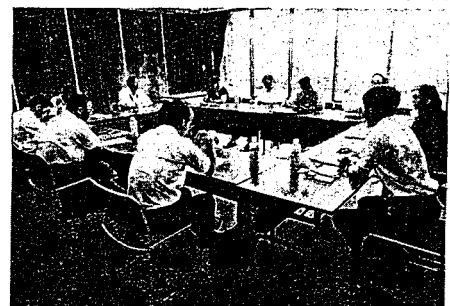
信頼と期待に応えるために

佐野地区小中学校教頭会長 坂 齋 茂

佐野地区小中学校教頭会は、佐野市内の公立小中学校の教頭38名と県立佐野高等学校附属中学校の教頭1名の計39名で組織されており、本教頭会の目的を「社会の信頼と期待に応えるよう研修と研鑽に励む」と会則に定めています。また、主な活動として、「会員の相互理解と研究推進・協力に関すること」や「会員相互の研修や親睦に関すること」などがあり、年間8回の研修会を行っています。

今年度は、第九期の二年目になりますが、研究主題である「豊かな人間性と創造性をはぐくむ学校をめざして」研究課題「子どもの発達に関する課題」を受け、昨年度、研究のテーマを「特別支援教育の推進と教頭のかかわり」として研究を進めています。昨年度は、研究の初年度ということで特別支援教育について実態把握をするためにアンケート調査を行い、その結果をまとめる中で今後の課題として3つの内容があげられました。今年度は、その中から中学校と高校の連携も含め、「異校種間の連携」について研究に取り組んでいます。6月には、県教育委員会特別支援教育室から講師の方をお願いして、テーマに沿った講話をしていただき、会員の特別支援教育に関する研修がさらに深まりました。昨年は小学校が県での発表をし、今年は中学校が紙上発表をすることになっています。

研修会では、後半に情報交換会を行い、互いに学び合い、高め合う場になっています。全会員が研修会を通して資質の向上をめざし、信頼と期待に応える魅力ある豊かな学校づくりを推進していきたいと思っております。



みんななかよし東山小

足利市立東山小学校 薄井 弘 一
平成12年4月1日 足利市立助戸小学校と足利市立相生小学校が統合され、足利市立東山小学校が誕生した。本校の校章は、当時の子どもたち全員から募集した図案をもとに作成された。新たな伝統を築くことを願い、校章上部には、仲良く手をつないだ1年生から6年生6人の姿。下部の葉は、近くの雷電様にちなんだ木としての「雷電木」の赤い新芽を図案化し、これから伸びゆく東山小学校を表現した。文字の白は、「さわやかさ」「純粹さ」「ひたむきさ」を象徴している。また、背景の山は、学区の中央に位置する雷電山を表している。子どもたちは、明るく素直で元気いっぱい。挨拶が上手なことは地域の方々からも折り紙付きである。



開校以来続く伝統行事として、7月に行われる「なかよしジャンボリー」がある。保護者、地域、学校が一体となりアイデア溢れる活動が展開される。ここで、特筆すべきことは、縦割り班活動で6年生を中心に準備を進め生き生きと活動する子どもたちの姿である。これを機に、6年児童は、リーダーとして逞しく成長し、9月の運動会で花開く。大切に育てた伝統の種が、大きく実を結ぶ瞬間である。

学校と地域とで…

鹿沼市立加蘇中学校 川島 敦子
移ろいゆく四季に心和む日々。しっとりとした情趣がよみがえる。何年ぶりだろうと思ったりする。

本校では、総合的な学習の時間の50時間を、学年を超えた異学年集団で実施している。伝統芸能科、伝統文化科、福祉コミュニケーション科、地域環境科の4コース選択制である。学校を囲む山々の緑がすっかり色濃くなった頃、とんびの鳴き声とハモるように、歯切れのよいお囃子の一節が校舎内に鳴り響く。その清んだ横笛の音、勇壮な和太鼓のリズムに魅せられて教室を覗いてみる。伝統芸能科を選択した生徒が加蘇地域に伝わる地囃しを奏でている。茶道室では静寂な雰囲気の中、伝統文化科の生徒がお点前を学んでいる。その立ち居振る舞いはしとやかで美しい。地域環境科では、加蘇地区環境の実態をとらえようと課題をもって調査・追究に取り組んでいる。福祉コミュニケーション科の生徒は、身近な人々との交流をおして、人間の尊さや生き方の違いに触れ、将来に向けて発信したいことを探っている。各コースとも地域の人材と資源とをフル活用である。豊かな自然に囲まれ、温かな地域の方に見守られながら本校の生徒は育っていく。地域と密接につながった豊富な教育資源は、本校にとって大きな財産であり、学校文化創造への重要なパイプである。

たくさんの方々に見守られています

高根沢町立北小学校 沼尾 昇

私は今年度、高根沢町立北小学校に赴任してきました。第1学期始業式の朝、北小学校の学区に入るとオレンジのベストを着た、たくさんの方々が目に入ってきました。前任の教頭先生から「北小はたくさんの方々が目に入ってきました。前任の教頭先生から「北小はたくさんの方々のスクールガードさんが、子どもたちの登下校を見守ってくださっています。」と聞いてはいました。しかし、見ると聞くとほまさに大違いでした。交差点ごとに立っている方、一緒に登校して下さる方等、その数の多さにはとてもびっくりしました。

北小学校には、現在26名のスクールガードがいます。この方々は、雨の日も風の日も、一日も欠かさず、北小の子どもたちの登下校を見守ってくださっています。

スクールガードの皆さんからは、児童のいろいろな情報が入ってきます。「あの1年生の女の子は、まだ、朝泣いているよ。」「登校班の集合時刻にいつも遅れてくる子がいて困っているよ。」「あの子は、朝ご飯を食べてないことが多いなあ。」「今日も歩道橋の上で座り込んでしまったので、そこから一緒に歩いてきたよ。」とても、ありがたい情報ばかりです。これらの情報は学校での児童指導に生かすことができます。

北小の子どもたちはたくさんの方々に見守られながら、毎日の生活を送っています。とても幸せな子どもたちです。

編集後記

夏のロンドンオリンピックでは本県出身の選手の活躍もあり、大いに盛り上がり、多くの感動を我々に残してくれました。そうした選手達の全力で取り組む姿やコメントは、児童・生徒に「最後まで諦めない姿勢」「チームワーク」「先輩・後輩の人間愛」等々多大な教育効果を及ぼしたと思います。

今回の会報は、5月の定期総会や東京で開催された全国研究大会を中心に掲載しましたが、原稿の執筆や写真の提供等の御協力をいただいた会員の皆様に深く感謝いたします。この会報を通して、会員の声が反映され、少しでも本会の目的が達成されれば幸いです。

(関山)